

研究課題名：	胆管炎後の胆嚢摘出の実態調査
所属(診療科等)：	公立昭和病院 消化器内科
研究責任者(職名)：	細川 貴範 (医長)
研究期間：	2018年4月25日～2018年12月31日
研究目的と意義：	総胆管結石における胆管炎症例では、胆嚢摘出術が推奨されているが、高齢者においては耐術能などの問題から胆嚢摘出術のリスクが高く、また予後の限られる症例も存在しその意義は明らかでない。総胆管結石における胆管炎後の胆嚢摘出術の意義を明らかにする。
研究内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象となる患者さん 2012年1月1日から2018年12月31日まで当院において総胆管結石の内視鏡治療を行った患者さんを対象とする。</li> <li>●利用するカルテ情報 診断名、病歴、身体所見、検査結果、診療についての記載等</li> <li>●研究方法 当院において、総胆管結石の内視鏡治療を行った患者のその後の胆嚢摘出術の有無、病歴、検査結果等について後ろ向きに検討を行う。</li> <li>●利用する研究機関の範囲 公立昭和病院</li> </ul>
問い合わせ先：	<p>【研究担当者】 氏名：細川 貴範 (消化器内科医師) 住所：小平市花小金井8丁目1番1号 電話：042(461)0052(代表) FAX：042(464)7912</p> <p>【ご意見・相談窓口】(臨床研究・診療内容に関するものは除く) 総務課 042(461)0052 内線2247 受付時間：月～金 9:00～17:00(祝・祭日を除く)</p>